



国際ロータリー第2780地区 第6グループ

厚木中ロータリークラブ 週報

2012-2013 第1706回5月22日号

会長：藤川孝幸 幹事：加藤元英

事務局：厚木市栄町1-16-15 厚木商工会議所2F 例会場：レンブラントホテル厚木

TEL 046-222-5811 FAX 046-222-5821

◆◇創立35周年記念例会特集◆◇



ご挨拶

厚木中ロータリークラブ会長 藤川 孝幸

青葉、若葉の風薫る今日の良き日に、厚木中ロータリークラブの創立35周年記念例会を開催致しましたところ、宮台厚木副市長をはじめ、後ほど記念講演をしていただく国際ロータリー第2800地区藤川パストガバナー、国際ロータリー第2780地区菅原ガバナー、後藤パストガバナー、須永ガバナー補佐、そして、会員ご家族と元会員の皆様にご臨席を賜りまして、心より感謝申し上げます。

願いますと当クラブは、厚木ロータリークラブをスポンサークラブとして、本年3月にお亡くなりになられた内藤国蔵特別代表と藤本清吉拡大補佐のご指導の下、昭和53年5月30日

に現在の地区内63クラブの中で41番目、また第6グループ内9クラブの中で5番目のクラブとして、34名のチャーターメンバーをもって発足致しました。

以来、各界の方々のご理解、ご協力、そして先輩ロータリアンのご努力によって、創立10周年には海老名ロータリークラブ、更に創立20周年には厚木県央ロータリークラブのスポンサークラブとして、ロータリークラブの拡大を行なってまいりました。

創立25周年に立ち上げた厚木商業高校インターアクトクラブも、子供たちの笑顔の奉仕活動が続けて、10年となります。創立30周年で防災の丘公園に記念植樹をした“おおもみじ”も、立派な枝葉を付けて成長し続けています。

しかし、この5年間には良い事ばかりではありませんでした。一作年の3.11東日本大震災が日本中を、いえ世界中を震撼させたことは、我々の記憶から決して消えることはありません。

この大災害に対し世界中のロータリアンが物心両面で被災者を支援し続けてくれていることは、誠に有難いことであります。被災直後、わがクラブは、先ず地区を通じて現地のロータリークラブに義援金を送り、災害復興にいち早く役立てて頂くことから始めました。その後、神奈川新聞社の『輝望プロジェクト』に協力し、東日本大震災や福島第1原発事故により修学旅行を出来なくなってしまった被災地の小中学生を神奈川に招き、生涯の素晴らしい思い出を作ってもらうことが出来ました。また、被災地少年野球チームを厚木に招待し、地元少年野球チームと親善試合や交流会、鮎祭りの大花火大会の鑑賞と、傷ついた子供たちの心に小さいかもしれませんが、一条の希望の灯りを灯すことが出来たのではないかと思います。

2012～2013 年厚木中ロータリークラブのテーマの『輝く未来を 子供たちに 被災者の方々に』を35周年記念事業の一つとして、会員の皆様に具体化して頂き、震災で深く傷つけられてしまった子供たちの心に、夢や勇気を持ってもらうキッカケになる図書・絵本を贈呈しました。この贈呈に際しては、被災した家庭の子供たちの通う会津若松の分校を訪れ、元気・勇気の出る様々な書籍を現地で購入し、直接子供たちの手にプレゼントしました。その時の子供たちのあふれる笑顔で、反対に子供たちから元気と勇気をもらったことは、ロータリー活動の中でも忘れられない思い出の一つとなりました。同時に、被災地の現況を目の当たりにし、本格的な復興はまだまだこれからなんだということを実感しました。クラブとして、またロータリアン個人としても、今後も更なる復興支援をして行こうとの思いを強く致しました。

更に、地域社会の子どもたちのために、厚木市内の留守家庭児童クラブには書籍を贈呈し、近頃急増している発達障がい児の社会的自立支援事業を行なっているNPO法人にも教育機器等を寄贈し、子供たちの輝く未来への一歩のお手伝いを致しました。

本日の記念例会・記念講演、そしてこれら35周年の記念事業を行なうことが出来たのも、飯田久夫実行委員長をはじめ会員の皆さんのご協力の賜物と、心より感謝致しております。

今年度就任された田中作治RI(国際ロータリー)会長は、日本人として30年振り、3人目のRI会長にあたる方で、その年次テーマを『奉仕を通じて平和を!』と、全世界のロータリアンに呼びかけ、「超私の奉仕」を実践して、これを築けるかどうかは、「ワタシタチシダイ」と投げかけられました。私達はこの言葉を胸に刻み、創立35周年という節目に際して、今後全会員が一致協力して精進を重ねて、ロータリーの道を歩んで行くことを誓います。

結びにあたり、ご来賓の皆様におかれましては、変わらぬご指導とご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。そして、世界中の子供たちの未来が明るく輝やかしいものとなりますように、また厚木中ロータリークラブをはじめ、すべてのロータリークラブの益々の発展とご参会の皆様のご繁栄、ご家族のご多幸を心からお祈り申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。(全文)

∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞



ソングリーダー中野会員



飯田実行委員長

◆◇記念事業報告◆◇



ロータリー財団と米山記念奨学会に記念寄付



城所記念事業部会長



鈴木記念事業副部会長



小澤事務局

◇ ロータリー財団大口寄付者へ記念品



杉田会員

限られたスペースに、この一枚の紙っぺらの裏表2ページに、5月22日の35周年記念例会を詰め込むのは、少々無理がある。が、脳裏にはこの日を迎えるために巡らせた様々な思いが焼き付いている。大過なく終えることができ、一番ほっとしているのは藤川会長と飯田実行委員長だろう。特に記念事業は、当初「地味」なムードでと始まったが結果的には予算のゆるされる範囲で、藤川会長の「子どもたちに」を軸に3つの事業、被災地を忘れずに…の一会員の言葉、やはり記念品は欲しいと実行委員長の想い、など会員ほぼ全員の総意を友愛という妙薬で具現化できた。藤川享胤PDGの記念講演『随所に主となる』は指針でもあり、ご褒美のようにも聞こえたのは私だけではないだろう。(や)

